

大使館からのお知らせ

<経済・経済協力情報>

在コスタリカ日本国大使館
経済協力班 渡部

2月に実施いたしました当館の活動について、ご紹介をさせていただきます。

1. 日本の協力を得て、カルタゴ市に末期患者ケアセンターが完成されました。



2月14日(火)、カルタゴ市オリエンタル地区に整備された、末期患者ケアセンターにおいて、完成式典が開催されました。

式典はカミネモス・フントス末期患者支援協会の主催により開催され、バラオナ同協会会長、ロドリゲス・カルタゴ市長他、約80名の関係者が出席し、当館は大野臨時代理大使が出席しました。

コスタリカでは、治癒が困難となった末期がん等の患者は、病院から退院せざるを得ず、適切なケアを受けることができずにいます。カルタゴ市には、痛みを緩和するだけでなく、精神科医師等による内面的なケアを行う「ホスピス」がありますが、施設が老朽化していたため、日本大使館は新たにケアセンターを整備する計画に協力を実施しました。

コスタリカは世界でも胃がんの発症率が高く、最も効果的な対策は早期発見のための検診であり、国際協力機構（JICA）は、専門家を派遣するなど、コスタリカにおける人材育成に協力を行いました。

この結果、胃がん患者の生存率が向上したことはコスタリカ国内に広く知られています。しかしながら、全ての方が治癒することは難しく、完成したケアセンターにおいて、適切なケアが行われます。

2. 日本の協力を得て、マレク先住民地域に2つの橋が完成されました。



2月17日（金）、コスタリカ北部のグアトゥソ市マレク先住民地域に整備された2つの橋の完成式典が、ビエント・フレスコ農牧市民協会の主催により開催されました。

完成式典は、マレク先住民のカストロ同協会会長、トーレス・グアトゥソ市長、ロペスMOP T次官他、地域住民、政府関係者を含む約50名が出席し行われました。当館からは、古川一等書記官が出席し、マレク言語も用いて、橋の完成を祝うとともに、両国の協力にて完成した橋による同地域の持続的な発展を祈願しました。

マレク先住民は、小規模でありながら独自の言語・文化を継承しており、農業だけでは収入が限られるため、先住民の生活様式の紹介や伝統工芸品を製作し、観光収入の促進を行っています。

しかしながら、同地域へ続く2つの橋は丸太に板をのせた簡易的なものであり、毎年、雨期になると川が増水し往来ができなくなり、丸太が腐食し、何度も掛け替えを繰り返しており、農作物の運搬や、急病人の救急車両の通行、観光客の訪問の障害となっていました。

当館は、この現状を同地域にて活動されていた国際協力機構（JICA）の合田シニア海外ボランティアから情報を得て、現地視察を行い、その必要性を認識しました。当館が2つの橋の建設のための資材と人件費を協力する検討を開始したことを契機に、グアトゥソ市、公共事業運輸省（MOP T）が材料費の一部を負担することに合意し、両国が協同で橋を建設する初めての計画を策定し、その実現のために努めてきました。

コスタリカの政府によるマレクを含む国内の先住民地域への支援が遅れています。政府高官が同地域を訪問したのは今回が初めてのことであり、この機会を利用しビエント・フレスコ農牧市民協会は、ロペスMOP T次官と同地域の開発について話し合い、学校の建設や道路の整備等、今後も協力を行っていくことを約束するなど、本件協力により、副次的な成果も得られました。

マレク先住民地域には、独自の文様を施した民芸品があります。先日、私も幾つか購入しました。お近くにお寄りの際は、是非、同地域を御訪問下さい。



同式典には、カストロ環境エネルギー通信大臣、クルス科学技術大臣、アラヤ・サンホセ市長、アイゼンマン日産自動車の販売代理店社長、メキシコから、ラミレス日産自動車ラテンアメリカ・カリブ地区代表他、当館から、並木大使が招待を受け出席しました。

式典後に、「日産リーフ」の試乗会が行われました。ガソリン車の様なエンジン音は無く、排気ガスはゼロ。他方、「日産スカイライン(セダン)」2500cc と同等の加速、100km/h 以上のスピードが出ます。自宅などで約 8 時間の充電することにより、使用状況にもよりますが、最高 200km の走行が可能。性能のみならずデザインも良いです。また、30分で80%まで充電を行うことのできる急速充電器も紹介されました。

<http://www.revistasumma.com/negocios/23203-nissan-anuncia-proxima-llegada-de-su-auto-electrico-a-costa-rica.html>

お問い合わせは大使館 経済協力班 渡部まで
TEL: (506) 2232-1255 e-mail: fujitaka.watabe@mofa.go.jp